

1 担い手（農業者）育成に関する支援 ～人づくり～

茶生産の安定化による販売額の確保

対象者 甲賀市信楽町 A氏

【普及活動のねらい】

A氏は大阪府出身で、茶専業農家の茶園管理作業の手助け等を行っているグループである「茶助（サスケ）」に参加し、アルバイト作業をされていましたが、地域の農村風景と伝統の朝宮茶生産に魅了され、平成31年から一念発起して「Iターン農業者」として60aの茶園を借受け、茶農家の仲間入りをされました。



著しい晩霜害を受けた茶園

就農に当たって課題となったのは、病虫害の要防除水準の見極めや施肥技術など細かな管理技術の習得が不十分なこと、農業の経営管理の経験が少ないことでした。これらの課題解決のため、現地指導などを通じて支援しました。

【普及活動の経過】

病虫害防除については、発生状況の確認による、防除の要否判断技術や、浅刈りによる耕種的防除等を指導しました。施肥については、茶の生育に応じた施肥技術を指導しました。経営管理については、直売にする茶の量の決定、茶種の選定、今年から面積拡大した茶園の管理等の相談に乗りました。また、指導を行う中で、今年発生した晩霜害で著しい被害を受けた茶園の樹勢回復を図る必要が出てきたので、まず被害程度を把握し、被害に応じた摘採・整枝法について指導をしました。

【普及活動の成果】

指導の結果、チャノコカクモンハマキの発生量が多くなった時期がありましたが、適正な浅刈りが功を奏し、農薬散布をせずとも病虫害をほぼ抑えられました。施肥面では適期に作業ができ、また、晩霜害については、被害が大きな茶園の減収をある程度食い止めることができました。経営管理面では、有機農業実践に伴う注意点の確認や直売に向くほうじ茶の加工等、販売戦略を検討できました。また、初めて参加した滋賀県荒茶品評会せん茶の部においては、3等入賞を果たし、本人の「今後もいい茶を作っていこう」という意欲が大いに高まるとともに、直売時のPRでの活用にもつながりました。



病虫害発生状況調査の様子

当課としては、就農計画に沿った収益確保を含め、Iターン農業者による新規就農のよきモデルとなるよう、今後も支援していきます。